

しゅうそさんごうさほう おんがくほうよう  
宗祖讃仰作法 音楽法要

■ 楽曲データ

楽曲：高木了慧 作曲

制定：浄土真宗本願寺派 2008年

初演：—

初出：—

管理番号：—

■ 創作の経緯

親鸞聖人750回大遠忌法要の作法として、2008年に制定。

■ 校訂報告

校訂譜：『聖歌・讃歌集』第1巻収録

底資料：『宗祖讃仰作法 音楽法要 楽譜』本願寺出版社 2009年

校訂の詳細：特記事項なし

■ 解説

親鸞聖人750回大遠忌法要に際しては、ふたつの『宗祖讃仰作法』がご制定となりました。ひとつは和讃を中心とした伝統的な様式による作法、もうひとつが西洋音楽を採り入れた作法（音楽法要）です。

『宗祖讃仰作法 音楽法要』の策定にあたっては、大衆唱和とすることと、西洋音楽を用いることが基本方針として盛り込まれました。音楽的な編成は、出勤僧侶と参拝者のお勤めに加え、ピアノまたはオルガンによる伴奏、讃歌集による合唱、雅楽器による付楽となっています。

現在本願寺では、御正忌報恩講において勤められています。

◆ 構成

宗祖のご消息の拝読にはじまり、〈頂礼文〉〈正信念仏偈〉〈和讃・念仏〉〈回向文〉、そして最後に再び宗祖のご消息を拝読します。

〈頂礼文〉

新たに作譜したもので、調声につき同音が繰り返す形式です。

〈正信念仏偈〉

『正信念佛偈作法』の譜（いわゆる「十二礼の節」）ですが、西洋音楽的な和声を伴った器楽が添えられています。

### 〈和讃・念仏〉

和讃と念仏を交互に続けて唱えます。新たに作曲された楽曲ですが、唱えやすい旋律で作られています。

### 〈回向文〉

ご文は「恩徳讃」として知られる和讃で、仏教讃歌《恩徳讃》（旧譜、澤康雄作曲）の譜で唱えます。

なお、本作法については、本願寺仏教音楽・儀礼研究所ニューズレター『仏教音楽』第7・8号合併号と第9号に、法要策定の意図や演奏時の注意点などを詳しく掲載していますので、ご参照ください。下記URL、QRコードからご覧いただけます。

<http://j-soken.jp/download/406>



### ◆楽譜・音源について

本願寺出版社より、経本・讃歌衆と伴奏用の楽譜・CDが刊行されています。

また、CDと同じ音源を、浄土真宗本願寺派総合研究所ウェブサイトからダウンロードすることもできます。下記URL・QRコードからアクセスできます。

<http://j-soken.jp/download/44>

